（別紙4）　　平成　30　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1290800174		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケアグループホーム市川		
所在地	千葉県市川市須和田1-11-13		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成31年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様・職員の笑いが絶えない明るいグループホームです。職員一人ひとりが入居者様の状態を把握し、情報の共有・月1回のカンファレンスを通して、より良いケアに繋げようと入居者様の自立支援に力を入れています。また、地域運営推進会議ではご家族を中心に参加していただき、市役所の方にもご意見を頂いております。地域貢献として幼児園児との交流や、水耕栽培の取り組みの開始など地域に根ざした施設運営を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ヒューマンライフケアグループホーム市川」は、閑静な住宅地の中にあり、家庭的な雰囲気を大切にしている施設である。地域行事への参加・ボランティアの受け入れ・保育園児との交流等、地域との交流に取り組んでおり、入居者の生活活性化に繋げている。内科の往診頻度が高く、医師との関わりが密であり、適切な医療支援のもと、入居者の健康管理が行われている。また、医療機関とは急変時・緊急時の連携・情報交換が行えるよう対策を講じており、重度化・終末期においての適切な支援の実施に向け、協力体制が整備されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔」と「こころ」 いつでも人が真ん中 すべての人を尊重し、いつでも笑顔で触れあおう。 いつでも互いを思いやろう。 いつでもそっと支えあおう。 上記の理念のもと、最近では地域に開かれた授業所でるために、中学生の職場体験の受け入れや、幼稚園児の訪問を受け入れている。	法人理念と施設理念を事業所内に掲示すると共に、新人研修や現任研修にて周知・確認を行い、理念に基づいた支援の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には入っているが、地域への行事には参加出来ていない。今年から始めた水耕栽培で野菜を作成し、地域の方へ提供することにより、少しずつ関わりの頻度を上げるようにする。	自治会に加入し、地域との交流を図っている。また、地域の傾聴ボランティアや保育園児の訪問を受け入れており、入居者の生活の活性化に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた入居希望の家族様に対して、相談内容から認知症への理解・支援方法の説明をしている。また、必要に応じて入所施設の説明もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の状況報告とホームでの生活を報告し、市の福祉政策課の方々からご意見を伺っている。	市役所職員・家族等を構成員として、2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の運営理解やサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要な際には連絡を取り、ご教示頂いている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告等を行い、連携を図っている。また、今年度は、市の指導監査を通して、適切な改善を行い、運営及びサービスの向上に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年は玄関は開閉時にチャイムが鳴るだけで、鍵等は掛けていかったが、家族の要望で施錠するようにした。二階関しても、階段への引き戸が開く際にチャイムが鳴るのみ。身体拘束をしている入居者は居らず、身体拘束の研修を年2回必ずしている。	身体拘束排除における指針を整備していると共に、定期的に検討委員会が開催されており、身体拘束の無い支援を実践している。また、内部研修を実施しており、全職員の共通理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修を必ず年1回開催し、『グレーソーンの虐待』に対しても起こらないように事例研究を元に勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社他施設との情報共有により、成年後見人制度についての知識を得たりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理解しやすいように、噛み砕いて説明をし同意を得ている。また、改定時には覚書の交わし、運営推進会議で改定の内容の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に利用者の話を聞く体制で介助にあたり、ご家族が面会にいらした際には必ずご要望を伺っている。また、苦情・相談窓口を施設・本社に設けいている。	家族の面会時・電話連絡や運営推進会議にて、意見・要望等を確認している。挙がった意見・要望等においては、会議や連絡ノートにて周知・検討する等、適切な改善に努めている。また、毎月、入居者の生活や活動状況を文書で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議では職員が意見が出やすいように質問し、多くの意見を得ている。また、カンファレンスなどで出た良いケアに対しては、すぐに実施している。	定期的に会議を開催し、職員の意見や提案等を確認している。また、管理者や法人職員が個別に意見や思い等を確認しており、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きやすい環境設備を整え、キャリアパスに則った昇給を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒職員は本社での研修を必修としている。本社での社内資格取得や、県での認知症実践者研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市川市で開催の研修に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントでは、出来るだけご自宅に伺い、生活状況や生活歴を確認。要望を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に家族の立場になって傾聴し、ご家族の悩み、要望を聞いたうえで、施設として出来る介護を提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に介護保険未認定の方や施設への入所を経験したことのないご家族の場合は、介護保険の申請の仕方や、介護施設の種類・用途、施設入所の際に必要なものや進め方を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備・食器洗い、洗濯物畳み等のお手伝いをして頂き、入居者様の身体機能に合わせた介助が出来るように随時検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を行う際には、ご家族に参加していただけるように案内を出している。請求書に入居者様の生活状況のお手紙を同封して渡している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも知人・友人の面会が出来、ご家族に連絡した上での外出が可能。	家族の訪問等を通して、馴染み関係継続を支援している。また、家族の協力の下、馴染みの場所への外出等を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりあえるようなレクリエーション（行事・音楽療法）を行っており、入居者様同士の橋渡しも職員が積極的に行っておる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族の相談や支援に努める事をお伝えしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約時にご本人の生活歴や希望を伺い、身体状況も確認した上で医療機関や、マッサージのサービスが受けられるようにしている。	本人や家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、必要に応じて医療機関や他のサービス事業所等から情報を収集し、状況の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常にモニタリングを行い、生活状況を把握している。新たに得られた生活歴やご本人の要望などをケアに反映出来るようにカンファレンス時の議題にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の身体状況の把握に努め、必要な介助を検討し、能力の維持できるように介助に当たっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前にご家族様よりご要望を伺い、可能ならご本人にもホームでの生活の希望を伺いサービス担当者会議を開催し計画の作成をしている。	本人・家族の意向を確認した上で、検討会議を行い、介護計画を作成している。計画目標の達成状況の確認や評価を定期的に行い、介護計画の見直しを行っている。	介護計画作成の会議は行われているが、職員だけでなく、本人や家族等も構成員に含め、より本人や家族本位の計画作成に努めていただくことを望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残すだけではなく、朝・夕の申し送り時に情報を共有。変化があった際には必ず口頭で伝えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のカンファレンス時にご家族・入居者様の要望に応えられるように検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを積極的に行い、月に1回傾聴ボランティアに来ていただき、お話を聞いていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの往診以外の受診は基本的には家族にお願いしているが、ご家族の都合がつかない際には看護師か職員が対応している。現在内科往診以外にも希望者には精神科・皮膚科・耳鼻科の往診が可能。	定期的に内科往診や歯科往診を行っていると共に、希望の医療機関の受診も行う等、適切な受診を支援している。また、常勤の看護師による健康管理・服薬管理も行なわれている。その他、希望に応じて、訪問マッサージの受け入れも支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専従の看護師が居り、入居者に何かあればすぐ対応できる体制が整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師が担当医と情報交換をし退院の見通しや、退院後のケアについて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師が回復の見込みがないと判断した際には、主治医・看護師・管理者・ご家族と話し合い、ご家族の希望に沿った、施設で可能な看取りを行っている。	契約時に重度化・終末期における施設方針を説明し、同意を得た上で家族の意向を確認しているている。また、状況に応じて、再度、家族の意向を確認した上で話し合いを重ね、施設で出来る限りの支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時での対応は職員一同に周知しており、看護師もオンコールで対応できるようにして頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練により、職員全員に周知している。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置していると共に、年2回の消防避難訓練を実施している。訓練では、消防署立会い訓練・通報訓練・消火器訓練等を実施しており、状況に応じた対応方法の確認を行っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりにあった声掛けをしており、言葉使いや態度には注意している。また個人情報やケアの記録に関しては、入居者様の目に触れないように保管している。	プライバシーの保護に関するマニュアルを整備していると共に、研修が実施されており、プライバシーに対する理解や意義については、全職員が共有している。接遇においては、現場での適切な指導により、個人の尊厳を大切にし、一人ひとりに合った言葉使いや対応を行っている。個人情報については、個人ファイルの取扱目的・保管場所に気を配る等、慎重な取扱いや管理の徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや感情を引き出せる努力や声掛けは職員が常に行っている。生活場面では選択・自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者中心の介助を実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を取り入れており、好きな髪形やカラーが出来るようにしている。また、ご本人の好きな服装が出来るように、職員が介助に入っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	『やわらか食』を導入しており、ミキサー食などを廃止し、見た目から食を楽しめる様にしている。	入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立や食材の配送は業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、やわらか食を導入し、食べやすさや見た目に配慮している。定期的に外食会や行事食の提供等を行っており、食に対する楽しみを支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量は一覧表に記録し把握している。嚥下機能が低下している方には『とろみ』をつけて提供し、水分拒否のある方に関しては『ゼリー』を提供し水分摂取をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の往診を定期的に実施し、管理していただいてる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間でトイレ誘導。出来るだけ、トイレで排泄が出来るようにケアをしている。	入居者個々の排泄状況や排泄パターン及び水分・食事量を把握した上で、なるべくトイレで排泄が出来るように適切な支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には下剤に頼るだけではなく、乳製品も含め食事療法で便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個別に対応。出来る限りご本人の希望に沿えるよう介助している。入浴拒否が強い入居者様には体調やご気分に配慮してお声をかけている。	入居者の体調や希望に応じて、適切かつ柔軟な入浴を支援している。必要に応じて、足浴や清拭等を実施しており、入居者の清潔保持にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠パターンを把握し夜間眠れなかった入居者様に対しては様子観察を行い傾眠など見られた際には居室で休んで頂ける体制が整えられている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については研修を行い職員に周知している。また、服薬時は誤訳防止のため２人でダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や嗜好品など入居者様一人ひとり把握し、介助に導入している。また入居者様の得意なことも把握しており、適切な役割を与えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方への外出はご家族にお願いしているが、近所への外出希望があった際には職員が出来る限り対応している。	日頃から散歩等を行い、戸外に出る機会を設けている。また、家族の協力を得ながら、買物や外出の機会を設け、戸外での楽しみを支援している。	外出支援の方法や体制及び計画を見直し、定期的な活動の実施や、更なる利用者の楽しみに繋げていただくことを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止のため、金庫に保管している。使用の際にも、ご家族同伴か職員が介するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と取り決めをし、必要の場合は職員が電話をし、入居者様に代わっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはテーブル席の他にソファーを配置し、寛げる空間を作っている。また、写真ボードや季節の飾りつけし、季節を感じられる工夫をしている。	施設内はソファーやテーブルを設置し、入居者が落ち着いて過ごせる環境作りがなされている。随所に、入居者の作品・写真の掲示や季節飾りがなされており、温かみのある空間となっている。また、エレベーターが設置されており、入居者の身体状況にも配慮した造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常のほとんどを過ごすフロアにはソファーを配置。入居者様のソファーにあった椅子に座って頂き、好きな所で過ごせる空間となってる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品を飾って頂いており、使い慣れた各家具なども置いて、慣れ親しんだ物の中で生活できるように支援している。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの家具や写真等を自由に持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活が出来るよう配慮されている。また、テレビ・ポータブルトイレの設置や布団を敷く事が可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーになっており、エレベーターも設置している。入居者様の希望により、階段も使用している。		